

牧野信一 生誕 130 年記念

文学散歩と講演会の日

【開催日】 2026 年 11 月 20 日（金）

■午前部 文学散歩 10 時～12 時

小田原市内の作家に縁深い箇所を歩き、墓参も行います。

【集合】 9 時 45 分 小田原駅東口『北條ポケットパーク』（三角広場）

【コース】 北條ポケットパーク → 生家（駅前）→ 墓参（清光寺）→ 終焉の場所（本源寺付近）

案内人：熊谷真理人・鈴木美樹・田代道彌

■午後部 講演会 14 時～16 時（開場 13 時 受付開始 13 時 30 分）

テーマ「小田原発 牧野信一の文学を語る」－「傑作短篇」の魅力と謎解き－

21 世紀に入り、再評価の機運が高まる小田原出身の作家牧野信一。

その代表作である 10 数篇の短篇小説の魅力と、作品中にある小田原・足柄地域に関連深い「謎」について
各々の視点から語ります。

【会場】 おだわら市民交流センター UMECO 会議室 1・2（定員 80 名。定員になり次第締切）

【講演】 柳沢孝子（日本文学研究者 前開智国際大学教授）

青木怜依奈（文学博士、東京大学大学院卒）

司会：紅野謙介（日本大学名誉教授 公益財団法人日本近代文学館専務理事）

【参加費】 2000 円

【申込】 案内状同封ハガキ・電話・Mail

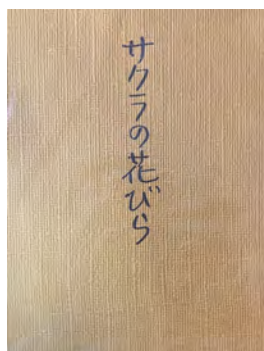
【E-Mail】 uketuke@odawara-bungaku.jp

【電話】 090-5409-3071（事務局 小泉）

【申込締切】 11 月 13 日



詳細・お申込みはこちら



牧野信一の文学碑を建てる会
記念誌編集委員会編 『サクラの花びら』
※当日講演会場で古本を限定販売いたします。



牧野信一（1896-1936）自宅にて

本年は小田原生まれ作家牧野信一の生誕 130 年（没後 90 年）にあたります。牧野信一は、40 年の生涯で、創意工夫とユーモアに満ち、ときに時代の不安を表現する優れた短編作品を生み出しました。その大半はこの小田原・足柄地域を舞台となっています。作品の魅力と秘められた謎について、3 人の講師の皆様と共に考えたいと思います。

講師プロフィール

紅野謙介

1956 年生まれ。麻布高校教諭を経て日本大学教授、同大文理学部長を務めた。専門は日本近代文学。高校国語教科書の編集にも携わってきた。著書に「中里介山『大菩薩峠』とその時代生成・受容・変換のクロニクル」「職業としての大学人」「国語教育 混迷する改革」「検閲と文学」「書物の近代」など。

柳沢孝子

前開智国際大学リベラルアーツ学部総合文化学科教授。研究領域は、大正期及び昭和初期の主として私小説。著書『牧野信一—アイデアの獵人』（小沢書店、平成 2 年）、『私小説の諸相—魔のひそむ場所』（双文社出版、平成 22 年）

青木怜依奈

日本文学（近代文学）研究者。東京大学大学院卒。2026 年「牧野信一研究」で博士号取得。現在東洋大学文学部、実践女子大学、和洋女子大学などで非常勤講師を務める。

牧野信一 傑作短篇の作品の舞台を調べてみると…

東京・小田原の人々との交流・充実期 「ギリシャ牧野」の物語（足柄エリア）

西部劇通信 昭和 5(1930)
吊籠と月光と 昭和 5(1930)
ゼーロン 昭和 6(1931)
バラルダ物語 昭和 6(1931)
酒盗人 昭和 7(1932)
夜見の巻「吾ガ昆虫採集記」の一節 昭和 8(1933)
天狗洞食客記 昭和 8(1933)

危機意識の深まる晩年期 「川沿いの仮想的村」の物語

鬼涙村 昭和 9(1934)
月あかり 昭和 9(1934)
繰舟で往く家 昭和 10(1935)

作家としての模索・実験的作品期 小田原市とその郊外の物語

西瓜喰ふ人 昭和 2(1927)
鱗雲 昭和 2(1927)
心象風景 昭和 6(1931)
鬼の門 昭和 7(1932)

作家デビュー期・晩年期 小田原市街（家族の物語）

地球儀 大正 12(1923)
父を売る子 大正 13(1924)
熱海線私語 昭和 10(1935)

